

オオクサキビの雑草化防止試験

中村 進・井上尚武(大分県農業技術センター)

NAKAMURA, S. and N. INOUE : Control of Fall Panicum (*Panicum dichotomiflorum*) as Weeds

オオクサキビ栽培跡地で、他作物例えば飼料用とうもろこしや水稻を栽培する場合、オオクサキビが雑草となることが考えられる。そこで、主に除草剤を使ってこれを防ぐ方法について検討した。

1. 試験方法

試験Ⅰ 1) 試験期間 1982年5月7日～8月24日 2) 処理 ①シマジン水和 20g/a ②ゲザプリム+ラッソー 15g+20cc ③トレファノサイド粒 400g ④サタンバアロ粒 400g 以上播種直後処理 ⑤手取除草(播種後30日と40日に除草) ⑥無除草 3) 栽培作物 飼料用とうもろこし(P3424)

試験Ⅱ 1) 土壌及び規模 前年自然下種の水田土壌・1/2000aワグネルポット使用 2) 試験期間 1982年6月8日～7月17日 3) 処理 ①ロンスター乳 50cc/a 水深2cm ②サタンM粒 300g 水深2cm ③水深5cm ④水深2cm ⑤畑状態 ⑤を除き処理後7日目に落水し、落水7日目に規定の水深まで灌水、以後水深を保った。

2. 試験結果及び考察

試験Ⅰ 処理後40日のオオクサキビ乾物重は、ゲザプリム+ラッソー区とトレファノサイド区が最も少なく、次いで手取区、サタンバアロ区の順であった。このときの優先雑草は全区ともイヌビユであった。処理後110日のオオクサキビ乾物重は、手取区が最も少なく、次いでゲザプリム+ラッソー区であった。トレファノサイド区とサタンバアロ区は大きな差がなかった。(第1表)

試験Ⅱ この試験は、オオクサキビ栽培跡地に水稻を栽

培することを想定して試験した。処理後40日目のオオクサキビ乾物重は除草剤を処理した2つの区にはなく、水深5cm区は畑状態区比1%、水深2cm区は25%と水深に敏感に反応した。(第2表)

第2表 ポット試験での処理効果(処理後40日)

(本・g/ポット)

処 理	オオクサキビ		その他の雑草		優占雑草
	本数	乾物重	本数	乾物重	
① ロンスター	4 (2)	0 (0)	5 (7)	0.1 (1)	アゼナ
② サタンM	36 (22)	0 (0)	12 (18)	0.1 (1)	アゼナ
③ 水深5cm	14 (8)	0.3 (1)	57 (84)	5.8 (84)	アゼナ
④ 水深2cm	19 (11)	5.8 (25)	58 (85)	7.5 (109)	オオクサキビ
⑤ 畑状態	166	22.9	68	6.9	オオクサキビ

注) ()内は畑状態区比

3. まとめ

飼料用とうもろこしの栽培では、ゲザプリムとラッソーの混用が最も効果があると認められた。水稻栽培では除草剤を使用するか、水深を5cm以上に保つことでオオクサキビの発生をほぼ抑制できた。水稻栽培では灌水状態でロンスターやサタンMの除草剤が通常使用されており、オオクサキビが水田雑草化することはないと考えられる。

第1表 オオクサキビ抑制効果

(本・g/m²)

処 理	処 理 後 40 日				優占雑草	処 理 後 110 日			
	オオクサキビ		その他の雑草			オオクサキビ		その他の雑草	
	本数	乾物重	本数	乾物重		本数	乾物重	本数	乾物重
① シマジン	80 (91)	4.8 (109)	230 (49)	18.7 (35)	イヌビユ	20 (167)	11.9 (108)	70 (179)	35.7 (104)
② ゲザプリム +ラッソー	14 (16)	0.7 (16)	103 (22)	1.7 (3)	イヌビユ	4 (33)	1.2 (11)	59 (151)	3.6 (11)
③ トレファノサイド	24 (27)	0.7 (16)	84 (18)	8.8 (17)	イヌビユ	10 (83)	4.8 (44)	45 (115)	32.7 (96)
④ サタンバアロ	20 (23)	1.4 (32)	160 (34)	8.5 (16)	イヌビユ	8 (67)	5.2 (47)	33 (85)	31.6 (92)
⑤ 手取除草	72 (82)	1.0 (23)	226 (48)	3.4 (6)	イヌビユ	5 (42)	0.1 (1)	118 (303)	1.4 (4)
⑥ 無除草	88	4.4	474	53.1	イヌビユ	12	11.0	39	34.2

注) ()内は無除草区比